

令和 6 年（2024 年）12 月 11 日

札幌市長 秋元 克広 様

札幌市特別職報酬等審議会
会長 岸本 太樹



特別職の給料の額等について（答申）

令和 6 年 11 月 8 日付けで本審議会に対し諮問があった市議会議員の議員報酬並びに市長及び副市長（以下「市長等」という。）の給料の額について、下記のとおり答申いたします。

記

- 1 市議会議員の議員報酬及び市長等の給料
据え置くことが適当である。
- 2 審議会での主な意見
 - 市の抱えている課題の大きさや市長の責任の重さのほか、昨今の物価高騰、賃上げの機運等を考慮し、議員報酬、市長等の給料を引き上げてもよいと感じる部分はあるものの、他の政令指定都市との均衡、一般職の給与改定率の累計等から、現時点では据え置くことが適当。
 - 議員及び市長は選挙で選ばれることから、その報酬等については予測可能性や安定性も一定程度重視されるべき。
 - 現時点では、一般職の給与改定率の累計が 10%上がったタイミングで特別職の報酬等を引き上げるという基準に一定程度の合理性はあると考える。
 - 市民の賃金や年金が上がっても物価高に追いつかないという状況の中、税金を原資とした特別職の報酬等の引上げについては、市民理解が得られるよう考える必要がある。
 - 市長は選挙で選ばれており、かつ、組織のトップであることの責任の重さを考慮すると、市長とその他特別職との給与額の差が民間企業の場合に比べて小さい。

